



和泉葛城山ブナ林の保全に向けた調査研究

国の天然記念物に指定されており、衰退が危惧されている和泉葛城山のブナ林を保全していくために、種子生産量や健全度等の調査に取り組んでいます。

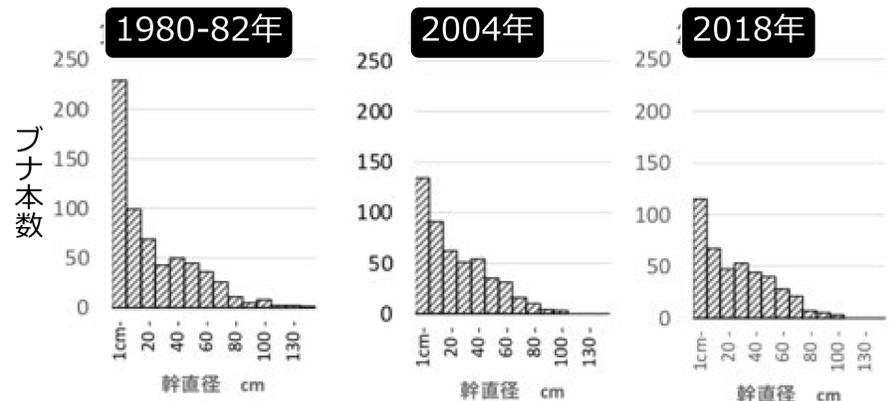
貴重なブナ林

- 岸和田市と貝塚市の境にある和泉葛城山の山頂付近には、ブナ林が広がっています。
- このブナ林は、冷涼な環境を好むブナの分布南限圏にあり、標高の低い温暖な場所に成立しています。
- その学術的な貴重さから、1923年に約8haの範囲が国の天然記念物に指定されました。
- しかしながら、近年ブナの大木の枯死が目立つようになり、種子の結実や若木も減少するなど、貴重なブナ林の衰退が危惧される状況となっています。



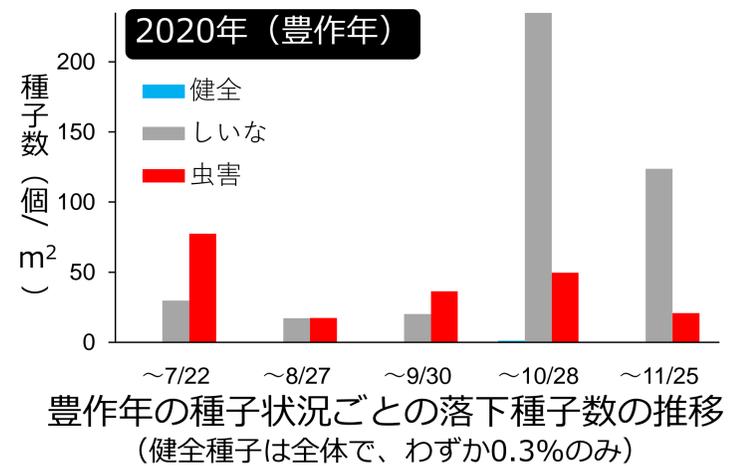
ブナ林の保全のための取り組み

- ブナ林を保全するため、「和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会」が設立されました。
- 委員会での有識者の意見に基づいて、大阪みどりのトラスト協会等による植生調査や環境調査など、様々な事業が行われています。
- 当センターもこの委員会に参画し、ブナ林の保全のための試験研究に取り組んでいます。



ブナの種子生産量と種子健全度の把握

- ブナの種子を集めるシードトラップを20基設置し、2019年から調査を継続しています。
- 2020年は久しぶりの豊作でしたが、しいなが多く、健全種子がほとんどないことが明らかになりました。
- 温暖化などの影響で、ブナの種子が健全に成熟できない状況となっていることが危惧されます。
- 温暖化の影響把握や、分布拡大しつつあるシカの影響に注視しながら、引き続き保全対策を進めていく必要があります。



設置したシードトラップの様子



収集した種子の様子